

岐阜県農業技術センターニュース No.43

小麦「さとのそら」で穂肥増量により、収量・タンパク質含量が向上！（作物部）

小麦「さとのそら」は、平坦地における小麦の主力品種であった「農林61号」がコムギ縞萎縮病の蔓延によって収量が減少する問題を受け、平成27年度（2015年度）には奨励品種に採用され、平成29年度（2017年度）には「農林61号」から全面切替えがされました。

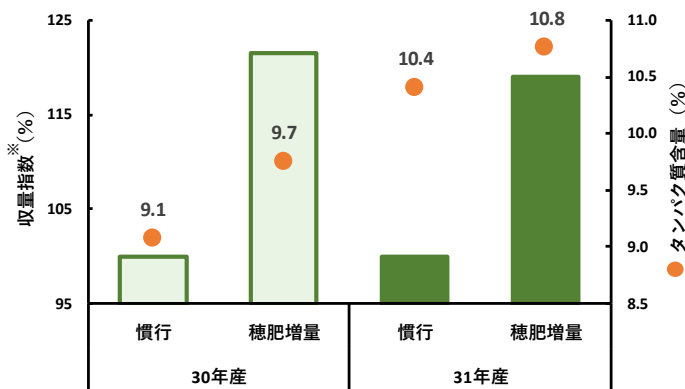
しかし、近年の「さとのそら」は収量性、タンパク質含量が低く、それらを向上させることを実需者、生産者から求められていました。

そこで、これらを向上させる施肥技術を開発しました。

施肥概要

	基肥		穂肥		合計
	種類	窒素施用量	種類	窒素施用量	窒素施用量
慣行	セラコートRブレンド※	8.4	NK化成2号	4.2	12.6
穂肥増量				6.0	14.4

※)セラコートRブレンドは、R25、R30を1:1で配合された肥料。



穂肥増量の効果

※) 収量指数は、慣行収量を100とした場合の指数

- ①慣行栽培に比べ、穂肥窒素量を2kg/10a増量することで、
収量は20%程度増加、タンパク質含量は5%程度増加することを実証
- ②穂肥増量による「倒伏の発生」、「外観品質の低下」の発生は確認されていない
- ③ただし、穂肥を重複散布することで倒伏する危険性がある為、散布作業には注意が必要



民間麦流通協議会などを通じて現地へ情報提供！

穂肥を増量する対応が西濃管内の「平成31年産 さとのそら栽培暦」で取り入れられています

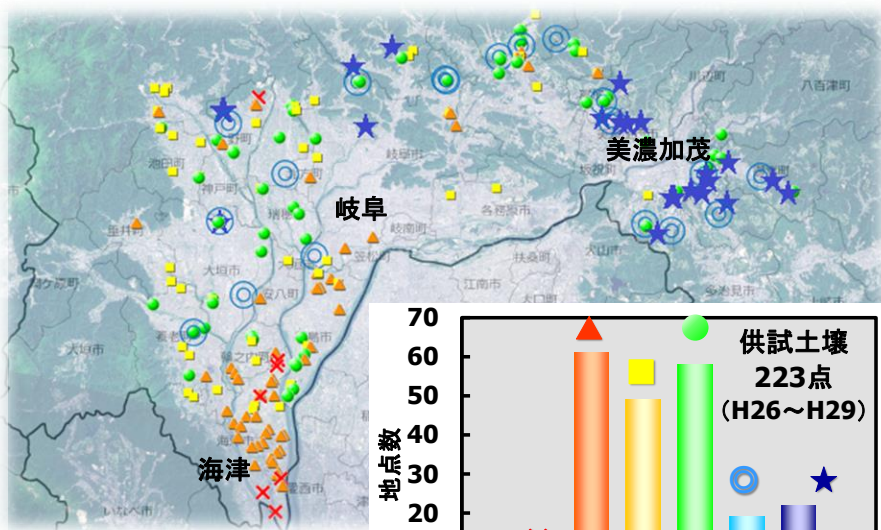
水稲「ハツシモ岐阜SL」栽培地域の土壌の地力窒素の実態を把握！ (土壌化学部)

本県平坦部「ハツシモ岐阜SL」において、安定した収量と高品質を両立するため、土壌から供給される窒素を考慮した施肥技術の開発に取り組んでいます。

田畑輪換が進む中、過去に比べて地力窒素が大きく変化していることも想定されるため、「ハツシモ岐阜SL」栽培地域の地力窒素の実態を調査しました。

右の図は土壌からの窒素の供給を量的に評価できる手法での調査結果です。海津市を中心とした二年三作体系による田畑輪換が繰り返されている地点では低い傾向が、一方で可茂地域では高い地点が多いなどの特徴が明らかとなりました。

これらの結果を基に、地力窒素を加味した適正施肥技術について、現在検討を進めています。



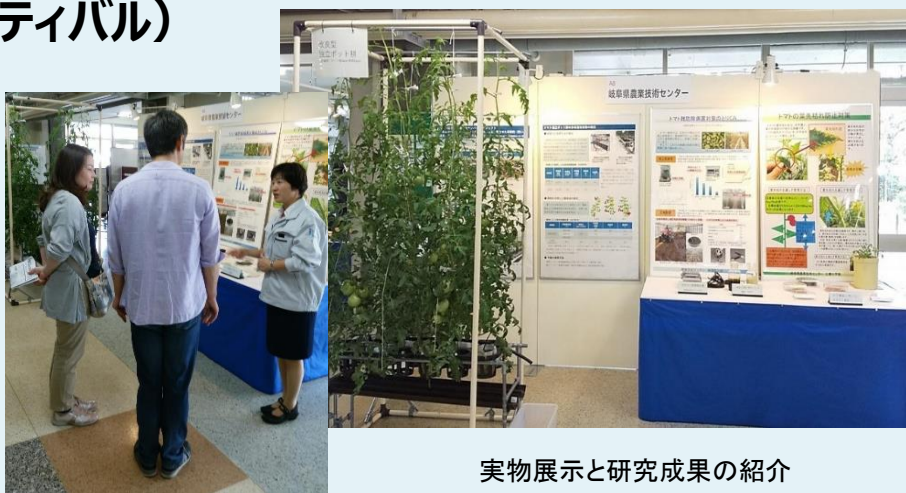
✓ グラフのバー上の凡例は
地図上のプロットに対応

湿潤土30℃10週間湛水培養窒素無機化量
(mg/100g)

トマトのプロジェクト研究成果を紹介！ (岐阜県農業フェスティバル)

10月26～27日に県庁周辺で行われた農業フェスティバルでトマトのプロジェクト研究成果として、本県で開発した独立ポット耕の密植ベンチ効果や灰色かび病等の難防除病害対策、生理障害である葉先枯れ症対策技術等の展示と紹介をしました。

実際のトマトを使った密植ベンチの展示が来場者の目を引き、「本物のトマトが成っている！」と驚いていました。また、「密植ベンチを用いたポット耕の導入経費」などを尋ねる方も見え、大変好評でした。



成果説明する研究員

実物展示と研究成果の紹介

★★★令和元年度 成果検討会 を開催します★★★

期日：令和2年2月19日(水) 場所：農業技術センター講堂

※詳細は後日ホームページに掲載いたします。皆様のご参加をお待ちしております。